

1 第2回少人数教育推進検討委員会の概要

① 「はぐくみプラン」の効果の検証と今後の方向性について

(1) 委員の意見

- ・基礎的な学力を身に付けさせることや特別の支援が必要な児童生徒への対応が可能となり、落ち着いて学習を行えるようになってきている。
- ・お互いの特性を把握することで人間関係が深まり、学級のまとまりも向上している。
- ・きめ細かな指導が可能となり、基礎学力の向上や良好な人間関係づくりに一定の効果が認められる。

(2) 決定事項

- ・25人を基本とする更なる少人数教育を推進する方向で今後検討していく。学級規模に関しては、ある程度の人数が必要。25人という学級規模は、小・中学校適正規模検討委員会の報告書に基づいており、学級規模の下限を考慮する。
- ・計画的・段階的な導入の検討に当たり、幼児期から小中学校各学年の状況を考慮する。

② 「幼児期から小・中学校各学年における幼児・児童・生徒の学習・生活の状況」について

(1) 委員の意見

- ・保育園、幼稚園、認定こども園と小学校との間に大きなギャップがある。
- ・小学校から中学校進学に当たり、ギャップがある。
- ・小学校3年生への進級時、学級人数が多くなるというギャップがある。

(2) 決定事項なし

③ 「25人を基本とする少人数教育の計画的・段階的導入検討に係る調査」の実施について

(1) 委員の意見

- ・アンケート対象として、複数の学年・学級の状況を比較でき、学年の特性を十分に把握している者とするのが適当である。

(2) 決定事項

- ・学校アンケートを9月中に実施する。校長が代表して回答する。
- ・負担軽減のため、教員・保護者への個別アンケートは行わないが、校長が自校の教員・保護者の意見を聞き取って記入する欄を設け、広く意見を集めるよう考慮すること。

④ その他

- ・特別支援教育における少人数教育についても検討していく必要がある。

2 25人を基本とする少人数教育の計画的・段階的導入検討に係る調査の結果【資料2】

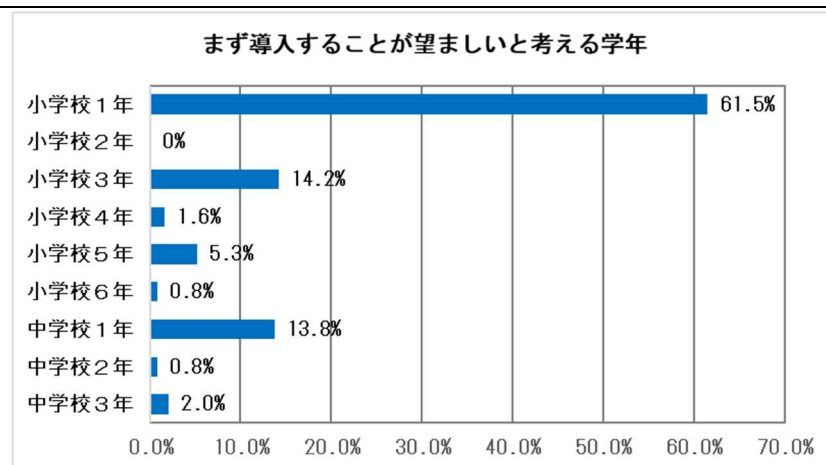
「はぐくみプラン」を拡大し、25人学級を導入する場合、小学校1年生から導入することが望ましいという回答が多かった。

- ・小学校1年へ導入することが望ましいとする理由として、「一人ひとりによりきめ細かで手厚い指導が必要な時期だから」を選択した回答が最も多かった。

【期待される効果】

主に挙げられた回答

- ・児童生徒に対して、学習面や生活面できめ細かな対応が可能になる。
- ・基本的なことが徹底でき、個別指導も充実するため学力が向上する。



- ・担任等の事務量が減るため、児童生徒一人ひとりかけられる時間が増える。
- ・保護者との連絡が緊密になり、学校に対する信頼が得られる。
- ・いじめや不登校等の児童生徒が抱える問題に対し、早期発見・早期対応が可能となる。
- ・児童生徒同士の良好な人間関係を築くための環境が整えやすい。(クラス替えが可能になるなど)

少数だが特徴的な回答

- ・教員と児童生徒の信頼関係を築きやすくなる。
- ・災害等学校安全への対応が充実する。

【要望】

主に挙げられた回答

- ・3年生以上での30人学級(少人数学級)の実現。(学年進行による学級規模の格差を減らすため)
- ・現在の加配を維持した上での少人数学級の実現。
- ・特別支援学級についても在籍人数の見直し。(上限8人からの引き下げ)

少数だが考慮が必要な回答

- ・単級アクティブクラスへの加配条件の緩和。(25人学級導入に伴い、26人から単級アクティブクラスの対象としてほしい)
- ・学校間で不平等がないように全県一斉の導入。
- ・担任を持たない教員の配置。
- ・優秀な人材の確保。(人員の効果的な増員)
- ・教室増に伴う施設・設備の充実。

3 1学年1学級のアクティブクラス(単級アクティブクラス)の現状

単級アクティブクラスについては、複数の教員が授業を受け持つことにより、学力面で一定の効果が認められることから、存続することが適当であるとの意見がある一方、単級アクティブクラスをなくし、全ての学級で、県の基準どおりの学級編制にすべきであるとの意見もある。

○平成19年3月にまとめられた「小・中学校適正規模検討報告書」(山梨県小・中学校適正規模検討委員会)によると、「20人程度以上の規模が望ましい」と示されている。単級アクティブクラスの設置は、学校教育における集団での諸活動を効果的に行うための制度である。

- ・単級アクティブクラスでは、35人学級編制の場合、教員1人が担当する児童数は、24~26人である(低学年の場合、20~23人)。1学年に複数の学級がある学校より、担当する児童数が少ない場合が多い。

- ・単級アクティブクラスでは、児童に対して手厚い指導が行われているため、全国学力・学習状況調査の平均正答率が高い傾向を維持していると考えられる。

- ・アクティブ加配の非常勤講師は半日(午前中)勤務のため、授業準備、成績処理等、午後の業務については、学級担任が行っている。

- ・授業をはじめ児童生徒への指導に関して担任とアクティブ加配の非常勤講師の間で情報交換や打合せの時間を確保するのが難しいため、常勤を希望する意見がある。

教員1名が担当する児童数 35人学級編制

	児童数(人)	1クラス 教員数	クラス数	児童数(人)/教員1名
単級アクティブ	36~40	1.5	1	24~26
35人学級編制	41~70	1	2	20~35
	71~105	1	3	23~35
	106~140	1	4	26~35
	141~175	1	5	28~35

教員1名が担当する児童数(低学年) 30人学級編制

	児童数(人)	1クラス 教員数	クラス数	児童数(人)/教員1名
単級アクティブ	31~35	1.5	1	20~23
30人学級編制	36~60	1	2	18~30
	61~90	1	3	20~30
	91~120	1	4	22~30
	121~150	1	5	24~30